

夕刊

産 経 新 聞

動物実験用の払い下げ中止へ

犬、猫に朗報

大阪府

公園や里親探しも積極的に

捕獲したり引き取った犬や猫を実験動物として払い下げていた大阪府は二年後をメドに中止するとともに、動物愛護事務所(仮称)を設置して動物愛護運動に積極的に取り組む構想を八日までにまとめた。現

在、大阪市東成区にある犬管理指導所は廃止、公園などを整備して子供らが動物と触れ合う場を作るほか、収容した子犬などの里親探しも積極的に進め、全国的にも先駆的な施設作りを目指す。

府では捕獲した野犬などを犬管理指導所に収容し、狂犬病予防法などに基づき

三日以内に引き取り手がなない場合は処分。前年度は犬約一万二千匹、猫一万匹を取り扱い、このうち約千七百匹を実験動物として医療機関に払い下げていた。こうした措置に、動物愛護団体から批判が上がっていたが、府では動物愛護の立場から払い下げ中止などを検討していた。



捕獲されたり、飼い主から引きとられ収容された犬は大阪府東成区の大阪府犬管理指導所で

構想では、二秒程度の土地を確保、周辺には公園などを作り、府民が動物と触れ合うスペースを作るとともに子犬を希望者へ譲渡したり、飼い主へのモラル向上のための指導・啓発などを行う。自治体の動物愛護施設としては千葉市などに例があるが、これほど大規模なものは珍しいという。

の改善や実験動物払い下げの中止などを求めている動物愛護団体「アーク」(大阪・能勢町、エリザベス・オリバー代表)は「遅かったけれども、一歩前進したことは評価できる。新しい動物愛護事務所では、ペットを捨てることがないよう飼っている方の意識向上にも取り組んでほしい」と話している。

今年三月、府議会に施設